

第6学年郷土学実践事例

単元名

世界に誇る技術

～ヘイシン装備を調べよう～

単元目標

世界に誇る工業用ポンプメーカーのヘイシン装備の技術について調べ、その技術を生かすまでの工夫や苦労を知る。

単元について

私たちは多くの工業製品に囲まれて生活している。子どもたちは、社会科の学習において、3年生では市内に有る工場について、4年生では日本の伝統工業について学習してきた。5年生では我が国の工業製品は国民の暮らしを支える役割を果たしていることに気づき、工場で働く人々は、消費者の多様な需要に応えたり、生産を高める工夫や努力をしていることを理解してきた。

子どもたちは、地元でありながら世界に誇る技術であるヘイシンモノポンプについて、聞いたことがあってもその仕組みや製造の仕方について認知できていない。そこで、工場見学や働いている方々の話を聞いて日本の産業の一端を担う地域の産業に目を向け、製造されている製品が様々な形で生活に役立っていること、豊かな暮らしを支える一端になっていることに目を向けさせたい。また、PRポスターを作成することでより身近に地域の産業に関わる姿勢を養っていききたい。

単元計画

(全9時間)

- ①兵神装備ってどんな会社？(1)
- ②兵神装備を見学しよう(2)
- ③見学したことをまとめよう(2)
- ④「PRポスター」を描こう(3)

単元の流れ

単元	学習内容	学習活動	教師の支援・児童の様子
	1. 「ヘイシン装備」とどんな会社？	①モノポンプについて調べ、その働きを考える。 パンフレットを基に、ヘイシン装備で製造されているモノポンプについて調べる学習を行った。子どもたちは、近くにいながらヘイシン装備の名前、製造している製品について知らない子どもが多かった。	
	2. 「ヘイシン装備」を見学しよう	②ヘイシン装備の工場見学 ☆ヘイシン装備の見学について 集合学習の編成で見学を行う。オリエンテーションで入出する場所、見学時に使用するヘッドホンの数量の関係から、見学人数を40人以内で計画した。	
			
			
	3. 見学したことをまとめよう	工場見学で見てきたことを中心に、学習のまとめとしてどのような形にするのか考えさせた。郷土学の学習の中で、パンフレットでの紹介、新聞形式などでまとめているが、今回は、調べとことを基にヘイシン装備の紹介をするポスターを作成することとした。	
	4. PRポスターを描こう	PRポスターを作成する中で、ヘイシン装備を紹介するにはどのようなキャッチフレーズが適しているか考えさせた。環境に配慮した企業をめざしていることことから「美しい町をめざす企業」、先進的な技術力から「世界仰天」、モノポンプの何でも流せる技術から「きっちり、もっちり」いうように子どもたちが考えたキャッチフレーズは、独創性が見られた。 子どもたちが作成したPRポスターはヘイシン装備に画像データとして送り、社内報でも紹介していただいた。	
			<p>見学内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 「ヘイシン装備」の株式会社概要 モノポンプに仕組み(ビデオ) 見学場所について説明 2. 工場内見学 案内の方の説明を聞きながら詳しく各部署の仕事内容について説明を受ける 3. 場内は機密保持もあり、写真撮影については社員の方がして下さいます。

子どもの変容・指導の成果

高月町の誇る先進技術の一つとしてあげられるヘイシン装備のモノポンプであるが子どもたちの認知度は低いのが現状であった。身近にこのような先進技術を持った会社があることの認知はあるもののどのような設備で、どのようなものを製作しているのかを教師自身が知らないこともあり新たな教材として取り上げることの意義があるように感じた。その思いは子どもの学習の中にも生かされ、自分たちの身近に全国的に有名な機械を製造している場所があること、また機械の精密さ・正確さを知り改めて郷土の良さについて考えられた子どもが多かった。

見学の後、PRポスターを作成する活動では、意欲的に取り組む子どもが多かった。今までの郷土学では、見たことや考えたことを中心に新聞作り、パンフレット等でまとめを行ってきたが、今回はヘイシン装備のPRポスターを作り、その中でキャッチフレーズを考えさせた。わかりやすく短い言葉で要点をまとめる活動は、国語科の学習と関連づけることで、総合的な単元として学習を進めることができる。今後、学習後のまとめ方についても検討をしていきたい。

課題

学区内にある産業・工業等についてまだまだ発掘できていない教材があるように感じる。今後も教材開発を続けていくことが大切である。

今回の学習は集合学習として取り組んだが、インフルエンザ等の関係で子どもたちの作成したPRポスターの紹介・交流の時間が取れなかった。郷土学の学習の流れとして 課題把握→見学・体験→交流・まとめの中で、効果的な交流活動の在り方を探っていきたい。

外部講師・地域連携

ヘイシン装備工場の方
ヘイシン装備所員技術研究所所員



子どもたちが作成したPRポスター